

2021年8月18日

細胞培養スタートアップのインテグリカルチャー社とともに 「魚類」の細胞培養技術の確立に向けた共同研究を開始 持続可能な“次世代の魚タンパク”の商業化生産をめざして

マルハニチロ株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：池見 賢）は魚類細胞の大量培養による食品生産をめざし、細胞培養スタートアップのインテグリカルチャー株式会社（本社：東京文京区、代表：羽生 雄毅）と開発契約を締結し、魚類の細胞培養技術の確立に向けた共同研究開発を推進いたします。

インテグリカルチャー社は、細胞農業（細胞培養）が普及する世界の実現に向けて、培養コストの低価格化と、細胞培養の大規模化技術の開発を行う革新的なスタートアップ企業です。

同社が独自に展開する食品グレード培養液と汎用大規模細胞培養システム“CulNet System™”は、これまで牛と家禽の細胞で有効性が確認されており、本研究ではこれらを新たに魚類の細胞にも拡張します。検証に必要な生きた魚（細胞）の提供をマルハニチロが担います。

マルハニチロは創業以来、良質な魚タンパクの供給を通じて人々の食と健康に貢献してまいりました。細胞培養技術を駆使した魚類培養肉の生産が実現できれば、世界中で高まる魚需要に対して持続可能な供給手段を提供する可能性が広がり、環境負荷リスクの軽減につながります。

本取り組みにより将来的に当社は、細胞培養技術によって作られた食品を消費者の皆さまの手の届く価格帯で提供することで、商業化生産を世界最速で実現し、持続可能な次世代の魚タンパクを提供することをめざしています。

世界最大かつ唯一の価値を提供する水産物サプライヤーをめざし、厳選された素材をもとにたくさんの「おいしさ」と「しあわせ」を創造する食品メーカーとして、マルハニチロは社会的・環境的課題解決に挑むスタートアップ企業とともに、次世代に向けた新しい価値の創造、そしてより良い世界づくりに取り組んでまいります。

以上

報道各位からのお問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 コーポレートコミュニケーション部

メール koho@maruha-nichiro.co.jp（広報窓口）
